

研究主題 「個に応じた指導の充実を図る国語科における指導内容・方法の 研究開発 ～国語力の充実を目指して～」

I 主題設定の背景及び理由

現代は高度に情報化した社会である。今後、この傾向はますます強まり加速すると考えられる。更なる高度情報化社会を生きる生徒たちに、社会生活を営み、文化を継承・発展していくことのできる言語能力を身に付けさせる必要がある。高等学校は、とりわけ、社会人として必要とされる言語能力の基礎（「話すこと」「聞くこと」「書くこと」「読むこと」）を確実に生徒たちに育成することが求められており、国語科が担う役割は極めて大きい。

平成17年1月、OECD2003年度PISA学力調査の結果が公表され、日本の15歳の読解力低下が指摘された。PISAの意図する「読解力」は、「与えられた情報を評価しながら読む力（クリティカルリーディング）」と「テキストの情報に基づいて自分の意見を書く力（論理的構成力）」とに分析できる。この読解力は、国語科だけではなく学校の教育活動全体を通して身に付けていくものである。しかし、各教科教育の基盤である「国語力」の育成は、まず国語科こそが担うべきである。

「国語力」に関する重要な指摘や報告が、国立教育政策研究所『平成14年度教育課程実施状況調査（高等学校）』の結果（平成16年1月）、文化審議会答申「これからの時代に求められる国語力について」（同年2月）、中央教育審議会「学習指導要領見直しにあたっての検討課題」（平成17年2月）等と続いている。さらに「文字・活字文化振興法」も制定された。これらから「国語力」とは、「論理的思考力」であり、それを支える「語彙力」であり、また、「テキストと自らの知識や考え方、経験とを結び付けて評価する力」「テキストの心情を理解し、自らの心情を形成する力」「テキストから読み取ったことから自分が考えたり感じたりしたことを表現する力」であると考えられる。今年度の研究では特に、先に述べたPISA調査を看過することができないとの認識に立ち、文部科学省「PISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向」にある「改善の具体的な方向」を本研究においても重視することとした。

しかし、実は現行の学習指導要領に「生きる力」としての「国語力」がすでに盛り込まれている。その適正実施が「国語力」育成につながるのである。つまり、毎時間の授業目標の明確化、目標に応じた的確な評価、個に応じた指導の手だて、目標に対応した言語活動の実施、学習内容の日常化・一般化の企図、という一連の過程を意識して指導することが大切なのである。これは15年度、16年度の研究においても重視されている。それによって、国語科だけでは達成できない面が一層明確化し、その不足部分を積極的に発信していくことから他教科との情報交換が盛んになり、有機的な連携にもつながると考える。

そこで、本研究では、過去の研究を踏まえ、「国語力」の充実を目指した教材・指導法を工夫し、その実践を通して「個に応じた指導」の一層の充実を図るとともに、各委員が発信者としての役割を担い、国語科から授業改善に資するための方法を構想し、発信した。

Ⅱ 主題説明の方法

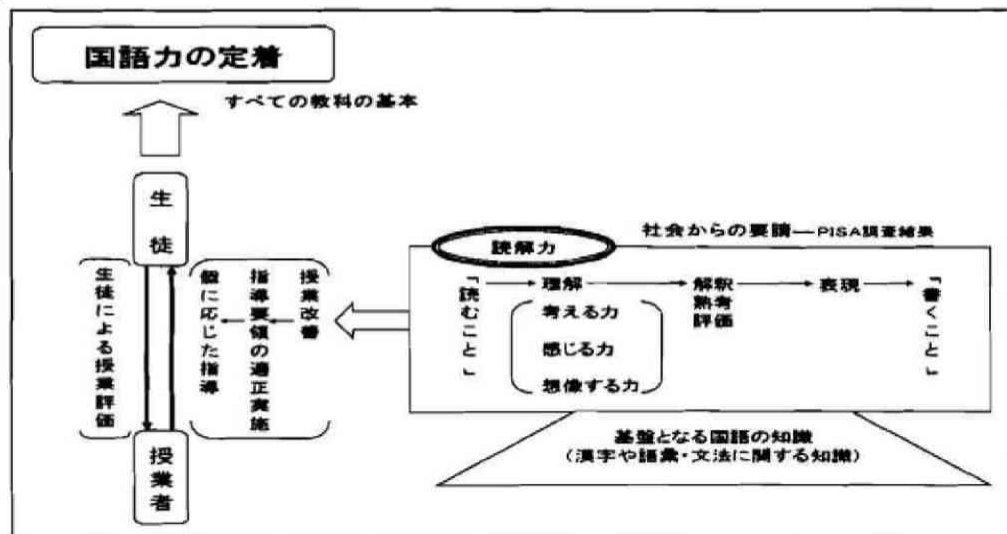
本研究では、16年度に引き続き「個に応じた指導の充実」が生徒一人一人に「確かな学力」を身に付けさせるための有効な手段であると位置付け、「書くこと」「読むこと」の二つの領域について分科会を置いて指導内容・方法の開発を行った。特にPISA調査の結果分析を踏まえ、目的や課題に即応できる言語能力の育成について、①テキストを理解・評価しながら読む力、②テキストに基づいて自分の考えを書く力、を高める指導方法の開発に取り組んだ。

「書くこと」分科会では、新聞記事を題材に、記事の書き手の主張を受け止めて、それに対する意見文を書かせる指導方法を開発し、自分の感じたことや考えたことを論理的に表現する能力の育成を図った。

「読むこと」分科会では、「現代文」と「古文」の二つの領域でそれぞれ指導方法の開発を行った。そこでは、「評価しながら読む」ことを共通の課題と位置付けた。「現代文」分科会では、統計資料を読み取ってそこから自分の意見をもち、さらに文章を図解することにより構成や論理展開を明らかにして、テキストを評価しながら読む方法、「古文」分科会では、『伊勢物語』『筒井筒』を題材として、文章に描かれた人物、情景、心情などについて、ストーリー予想と作歌を通して作品を評価しながら読む方法を試みた。そして、それぞれの方法を通して、課題に即応し、多様なテキストに対応できる読む能力の育成を図った。

学校においては、全教科で「読解力」の向上に取り組む必要があるが、特に国語科の授業者においては次の点に留意して「読解力」を含む「国語力」の育成を図る必要がある。①毎時間の指導目標と評価規準を明確にした学習指導計画の作成を行った上で、②「個に応じた指導」の充実を図ることによって、生徒一人一人に「確かな学力（国語力）の定着」を図る。さらに、③生徒による授業評価を計画的に実施して、④「個に応じた指導」が的確になされたかどうかを分析し、⑤問題点を明らかにして授業改善を行う。一連の学習指導の工夫、授業改善を繰り返すことによって⑥「国語力」の育成を図る。本研究では、この一連の指導方法のうち、特に②「個に応じた指導」についてその方法の開発を行った。

Ⅲ 研究構想図



Ⅳ 指導の実際

1 「個に応じた指導」の充実を図る「書くこと」の学習指導（国語総合）

— テキストに基づいて自分の考えをまとめる能力を伸ばす —

（１）単元名 意見文を書く（６～７時間）

（２）教材 自主編成教材

（３）単元設定の理由

現在の社会状況の中で求められる国語力は、広い視野をもち、情報を分析し、正確に把握し、的確に自らの意見を述べることのできる力である。PISAの読解力調査の結果を受けて示された改善の視点にも「テキストに基づいて自分の考えを書く力を高めること」が挙げられており、今後の国語科における書くことの指導においても改善を図らなければならない。

本単元は高等学校学習指導要領に記された、「国語総合」「２ 内容」の「Ｂ 書くこと」の指導事項イに基づいて設定した。言語活動例の中の意見文を取り上げた。意見を述べるという点においては、中学校学習指導要領〔第２学年及び第３学年〕「Ｂ 書くこと」の指導事項エによって指導がなされていることを受け、ここでは他者の主張を受け止めるという条件を加えた。意見文を書き上げる活動を通して、中学校で身に付けた能力を確認し、活用し、発展させることをねらいとしている。

具体的には、まず、他者の主張を読み取るという活動を設定した。その後、論理的文章の型を学び、他者の主張に反論する意見文（４００字程度）を書く。今回、反論する意見文に限定しているのは、反論という立場を明確にすることで、生徒が意見をもつことを容易にし、論理的文章の型を確実に身に付けさせるためである。

（４）単元の目標

ア 論拠となる情報を収集、選択し、文章の組み立てを工夫して書こうとする態度を身に付ける。（関心・意欲・態度）

イ 他者の主張に対し、自分の考えや意見を伝える論理的文章を書く。（書く能力）

ウ 論理的文章の型を理解し、身に付ける。（知識・理解）

（５）単元の評価規準

関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解
①自分の主張の根拠となる材料を収集・選択し、文章の組み立てを工夫して書こうとしている。	②他者の主張に対し、自分の立場を明確にし、客観的な根拠や理由に基づいた考えや意見を書いている。	③文章展開の基本となる型、各段落の意義を理解している。

（６）指導上の工夫

ア 学習内容を日常生活に還元するために、生徒にとって身近な素材、テーマを扱う。

イ 書く能力の定着を目指し、段階的な学習活動を計画し、取り組ませる。また、重要事項については単元内で繰り返し扱う。

ウ 生徒自身が主体的に学習活動に取り組めるようなワークシートを工夫する。

エ 応用性が高く、分かりやすい文章の型を示し、文章を書きやすくする。

オ 評価Cの生徒への指導を考え、プリントなど具体的な手だてを準備し、400字程度の意見文を確実に完成させ、達成感を味わわせる。

カ 「書く」ために「読む」活動をおき、二つの力が有機的に働いていることを意識させる。

(7) 指導と評価の計画（別紙）

(8) 成果と課題

ア 成果

(ア)書くことに対して抵抗感のある生徒も少なくなかったが、400字程度の文章を書くことを通して、達成感をもち、書くことへの関心・意欲を高めることができた。

(イ)学習活動に例文の作成を導入することにより、文章の基本となる型を主体的に理解させ、今後の書くことの指導につなげることができた。

(ウ)授業者が生徒のつまずきそうな点を予測し、具体的な手だてを準備して授業を進めたことにより、「個に応じた指導」を充実することができた。

イ 課題

(ア)本単元では主張に対して反論する意見文を書いたが、さらに肯定する意見文を書くための指導の工夫も必要である。

(イ)身近な素材、テーマを活用するために新聞の投書記事を活用したが、生徒の学習効果を高めるような文章を日ごろから収集しておく必要がある。その際、Cの生徒への手だてとすることやAの生徒への発展教材とすることも考えて、投書記事への反響（肯定、否定など）の記事があれば意識的に収集する。

2 「個に応じた指導」の充実を図る「読むこと」の学習指導（国語総合：現代文）

— テキストを解釈し評価する能力を伸ばす —

(1) 単元名 図表の言語化と文章の図解（6時間）

(2) 教材 自主編成教材 平成17年版国民生活白書「子育て世代の意識と生活」

(3) 単元設定の理由

文部科学省「PISA調査（読解力）の結果分析と改善の方向」では読解力改善の取組として「テキストを理解・評価しながら読む力を高めること」を挙げ、テキストの形式を「非連続型テキスト」＝図・グラフ・表などと、「連続型テキスト」＝文章などに分けている。「読むこと」分科会現代文班ではこの指摘を受け、国語力の根幹をなす「読解力」を向上させるための学習指導について研究を進めることにした。

本単元は学習指導要領「国語総合」「2 内容」の「C 読むこと」の指導事項ア、イに基づき設定した。文章ばかりでなく図表も含めたテキストから情報を正確に取り出した上で、その情報がどのような意味をもつかを解釈し、自らの知識や考え方、経験と結び付けて評価する能力の育成をねらいとしている。

具体的には図表を言葉で表現する、また、文章を図解するという双方向の作業を行うことによりテキストの内容、構成、意味を生徒が解釈し、評価することを目指した。図表をテキストとしてとらえ、文章と同じように「読解」することには、他教科との関連を考えても大きな意味がある。また、文章の図解については、論理的な思考力を育てるのに効果的である。

(7) 指導と評価の計画 (第1学年)

時間	各時間の目標と評価規準	評価の規準と方法	学習活動	指導上の留意点
1	・文章に書かれた他者の意見を理解し、それに対する自己の考えを表現する。 【書く能力】②	1 読み取った内容を意識して自己の考えを書いている。 2 根拠ではなく、独自性を発揮している。 3 一定の量の記述がある。 4 誤字、脱字がない。本来漢字で表記すべきものは漢字で表記している。 【記述の確認】	1 「書くこと」の授業であることを認識する。 2 授業者から提示された意見文を読む。 3 感じたことや考えたことを自由に書く。 4 空欄補充形式で要旨のまとめを行う。 5 要旨を簡潔な上で、感想があれば加筆する。	1 要旨まとめめは、文中の語句を補完するだけで完成するものを用意する。 2 賛成、反対等にこだわらず、思ったことを自由に書かせる。 ※教材となる意見文は、構成が明確で、反論しやすく、高校生が興味・関心を、もちやすいものを準備する。
2	・他者の意見に対して、根拠を示し反論する力を身に付ける。 【知識・理解】③	1 ワークシートに必要事項を漏れなく記入している。 2 特に反論の根拠については一定の量の記述がある。 【記述の点検】	1 自分の考えを的確に表現するために、文章構成の型を知る。 2 例文作成を通して文章構成の型を身に付ける。 3 第1時に使用した意見文の構成、要旨、意見の根拠となる部分を確認する。 4 提示された反論の根拠となり得る情報を読み、自ら考えた視点を追加する。 5 3であげた反論の根拠を分類、選択し、深める。	1 第1時に使用した文章にそったワークシートを用意する。 2 文章構成の型や反論のパターンをいくつか示す。
3	・文章の型や反論パターンにあてはめて根拠の明確な意見文を書くこととする。 【関心・意欲・態度】①	1 根拠となる事柄が明確な文章を書いている。 2 読み手を意識した表現を行っている。 3 一定の量(400字)の記述がある。 4 誤字、脱字がない。本来漢字で表記すべきものは漢字で表記している。 【記述の確認】	1 第1・2時の学習内容を活用して400字の意見文(反論する文)を書く。	1 原稿用紙を使用する。 評価Aの生徒への指導の手だての例 自己評価表と書き直し用の原稿用紙の用意をする。 評価Cの生徒への指導の手だての例 意見文を書くためのヒントになる空欄補充形式のワークシートを用意する。
4	・論理的な文章の型を理解する。 【知識・理解】③	1 文章の構成に即して要旨をまとめていく。 2 示された意見文の主張とその根拠を読み取っている。 【記述の確認】	1 授業者が用意した3つの意見文を読み、関心のある1つを選ぶ。 2 選んだ文章の要旨をまとめる。 3 ワークシートの項目ごとに材料集めをする。 4 次回、調べるべきことを各自確認する。	1 制限時間を設け、読ませる。制限時間以内に選べない生徒は授業者が意見文を指定する。 2 意見文を選ぶ際、反論を書くことを意識させる。 3 要旨は半紙制限なし。抜き出しの形でよい。 4 反論のための材料集めであることを認識させる。 明確な根拠となりうる材料を集めるように注意する。 ※教材となる意見文は、できるだけレベル・話題・執筆者の年齢の違うものを用意する。
5	・反論の根拠となる情報を収集、選択しようとする。 【関心・意欲・態度】①	1 反論の意見文の根拠として活用することを意識し、情報を収集、選択し、記録している。 【行動の観察】【記述の確認】	1 意見文の論拠となる情報集めをする。 2 資料となる文章を批判的に読み、情報を選別する。	1 自分が何を調べるのかという目的意識をもたせる。
6	・他者の主張に対し、論理的な意見文を書く。 【書く能力】②	1 前時に収集した情報を活用している。 2 第3時に同じ。 【記述の分析】	1 論拠を明確にした400字の意見文(反論する文)を書く。	1 原稿用紙を使用する。 集めた材料を効果的に取り入れさせる。 評価Cの生徒への指導の手だての例 2時間目に使用したワークシートで型や反論パターンを確認させる。 材料の取り入れ方を助言する。
7	・相互評価をし、よりよい意見文を書くこととする。 【関心・意欲・態度】①	1 よりよい意見文を書くこととするために他の生徒の意見文を読み、相互評価表に記入している。 【記述の確認】	1 相互評価する。	1 項目ごとに○を付けるチェックシートを用意する。 前の時間に書いた意見文の生徒の名前の部分を削除しておく。

(4) 単元目標

- ア 文章に付随する図や表、グラフに関心をもち、様々なことを読み取ろうとする。(関心・意欲・態度)
- イ 文章の内容を要約し、構成に従って図解をしてまとめる。(読む能力)
- ウ 様々な図表について、その意味や使われ方を理解する。(知識・理解)
- エ 文章読解における重要語句を見付けたり、小見出しを考えたりする。(知識・理解)

(5) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
①図・表・グラフに関心をもち、文章との関係を自分で考えようとしている。	③課題に応じて必要な情報を読み取り、図解にしてまとめることができる。	⑤図・表・グラフについて、その意味や使われ方を理解している。
②様々なテキストを読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりしようとしている。	④文章の内容を的確に読み取り、要約したり構成を確かめたりしている。	⑥語句について、その意味や文脈の中での対応関係を理解している。

(6) 指導上の工夫

- ア 文章に付随する図表を単独で示し、そこから読み取れることを文章化させ、もとの文章と比較できるようにする。
- イ 文章の図解に当たっては構成が単純で短いものから、次第に複雑で長いものになるように教材の構成を配慮する。
- ウ 「読むこと」の単元ではあるが、「書くこと」や「話すこと」への関連を意識付けるよう配慮する。
- エ 毎時のワークシートの点検及び「評価Cの生徒への手だて」により「個に応じた指導」を行う。

(7) 指導と評価の計画(別紙)

(8) 成果と課題

ア 成果

- (7)生徒が興味・関心をもち主体的に取り組むことができた。
- (4)図や表を言葉で表現する作業を通じ、単に見るのではなくテキストとして読解する意識を生徒がもつことにより、自らテーマや特徴に気付くことができた。
- (7)筆者の主張を受動的に読むことにとどまっていた生徒も、文章を図解することで構成や論理展開を主体的に確かめようとする学習をすることができた。さらにすすんで疑問を見付けたり新しい発見をしたりする生徒も多数にのぼった。
- (5)文章を自らの進路や将来の在り方と結び付けて考え、評価する読み方ができた。

イ 課題

- (7)テキストを評価する基盤となる知識や考え方を身に付け、磨いていくよう指導する必要がある。
- (4)図解をもとに文章を書く、スピーチをするなど、「書くこと」「話すこと」の領域につなげていくことにより、一層の効果が上がることが期待できる。

(7) 指導と評価の計画 (6時間扱い) 国語総合 (第1学年)

時間	各時間の目標と評価基準	評価の実施と方法	学習活動	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・グラフも読み取るテクニストだということを理解する。【関心・意欲・態度】①②【知識・理解】⑤ ・情報を正確に読み取っている。【読む能力】③ ・取り出した情報を論理的に言語化している。【読む能力】④ 	<ol style="list-style-type: none"> 1 グラフから読み取った内容を積極的にワークシートに記入している。【行動の観察】【記述の点検】 2 情報を的確に取り出し、論理的に記述できている。【記述の点検】 3 自己の読みの確認・点検をしている。【行動の観察】【記述の点検】 <p>◆ワークシート1</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「国民生活白書」中のグラフが何を表しているのかを読み取り、1行要約程度のタイトルを付ける。 2 複数のグラフから読み取った内容を文章化する。 3 出典の原文と比較し、内容の過不足を確認する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 単元設定の目的と「国民生活白書」についての説明を行う。 2 難解な白書特有の用語については解説する。 <p>評価Cの生徒への指導の手だての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グラフの読み取りの着眼点をヒントとして与える。 ・活動の手順を確認する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・マトリックスやロジックツリー、フローチャートの方法に身に付けようとする。【関心・意欲・態度】① ・情報を的確に取り出し、論理的に配列する。【読む能力】③④ ・文章を要約し、構成に従って図解にまとめる。【読む能力】④ ・文章中の重要語句を理解する。【知識・理解】⑤⑥ ・3種類のチャートについて、どのような場合に利用できるかを理解する。【知識・理解】⑤⑥ 	<ol style="list-style-type: none"> 1 文章内容を的確に図解しようとしている。【行動の観察】【記述の点検】 2 語句の用法・表記などを理解して読んでいる。【行動の観察】【記述の点検】 3 情報を的確に取り出し、論理的に配列できている。【記述の点検】 4 文章を的確に要約し、構成を確かめている。【記述の点検】 5 図解の利用法を理解している。【行動の観察】 <p>◆ワークシート2、3</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 図解の必要性を確認する。マトリックス、ロジックツリーの方法を練習する。 2 マトリックス、ロジックツリーの特徴を確認する。 3 フローチャートの基本を理解する。 4 文章をチャート化する。 5 文章をチャート化する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 一方的な解説にならないよう、生徒を指名しながら作成する。 2 読解だけではなく、思考の整理やプレゼンテーションにも使えることを説明し、折にふれ図解の機会をもつよう指導する。 <p>評価Cの生徒への指導の手だての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・項目ラベルに何を入れるかを示し、活動内容を整理して作成方法を徐々に理解させる。 ・活動の出発点を示し、論点を整理するよう指導する。場合によって欠けている点を指摘する。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容をすんで理解しようとする。【関心・意欲・態度】② ・白書特有の語句や表現を理解する。【知識・理解】⑥ ・文章の内容を的確に要約する。【読む能力】④ 	<ol style="list-style-type: none"> 1 関心・意欲をもって文章を読んでいる。【行動の観察】 2 語句の用法・表記などを理解して読んでいる。【行動の観察】 3 文章を的確に要約し、構成を確かめている。【記述の点検】 <p>◆ワークシート4</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 国民生活白書「むすび」を黙読する。 2 意味の分からない語句を取り出し、辞書で調べる。 3 段落ごとに要旨をまとめ、小見出しを付ける。 4 本来の小見出しを示し、自分のものと比較する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 要旨が長くないように注意する。 <p>評価Cの生徒への指導の手だての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重要と思われる語句を取り出すよう指導し、文の形にしていっていく方法を徐々に理解させる。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・文章全体をすんでチャート化しようとする。【関心・意欲・態度】① ・論理展開や構成に従って図解する。【読む能力】③ ・文脈上の重要語句を理解する。【知識・理解】⑥ ・文章を主体的に評価する。【関心・意欲・態度】② 	<ol style="list-style-type: none"> 1 文章内容を的確に図解しようとしている。【行動の観察】【記述の点検】 2 情報を的確に取り出し、論理的に配列できている。【記述の点検】 3 語句の用法・表記などを理解して読んでいる。【記述の点検】 4 自己の知識や経験に結び付けて評価している。【記述の点検】 <p>◆ワークシート4、評価票</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「むすび」の文章全体をチャート化する。 2 模範チャートを見せ、自分のものと比較する。 3 チャートを参考に、この文章に対する意見・感想を書く。 4 本単元の学習に対する自己評価を書く。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 単元の目的を確認し、自分の到達点を考えさせる。 <p>評価Cの生徒への指導の手だての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャート化の基本を再確認し、作業の出発点を示す。場合によっては、不十分な点を指摘する。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・文章全体をすんでチャート化しようとする。【関心・意欲・態度】① ・論理展開や構成に従って図解する。【読む能力】③ ・文脈上の重要語句を理解する。【知識・理解】⑥ ・文章を主体的に評価する。【関心・意欲・態度】② 	<ol style="list-style-type: none"> 1 文章内容を的確に図解しようとしている。【行動の観察】【記述の点検】 2 情報を的確に取り出し、論理的に配列できている。【記述の点検】 3 語句の用法・表記などを理解して読んでいる。【記述の点検】 4 自己の知識や経験に結び付けて評価している。【記述の点検】 <p>◆ワークシート4、評価票</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「むすび」の文章全体をチャート化する。 2 模範チャートを見せ、自分のものと比較する。 3 チャートを参考に、この文章に対する意見・感想を書く。 4 本単元の学習に対する自己評価を書く。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 単元の目的を確認し、自分の到達点を考えさせる。 <p>評価Cの生徒への指導の手だての例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チャート化の基本を再確認し、作業の出発点を示す。場合によっては、不十分な点を指摘する。

3 「個に応じた指導」の充実を図る「読むこと」の学習指導（国語総合：古典）

－ ストーリー予想と作歌を通してテキストを評価しながら読む能力を伸ばす －

(1) 単元名 和歌の読解と作歌を中心に作品を評価しながら理解する（4時間）

(2) 教材 『伊勢物語』23段「筒井筒」

(3) 単元設定の理由

平安貴族のコミュニケーションの一つに、和歌の贈答があった。和歌の読みには、歌の表面的な解釈にとどまらず、歌の真意は何か、どのような事情によってこのような表現になっているのかなど、言葉の背後にある意図を洞察する力が求められる。和歌を読み取る読解力は、PISAの読解力調査に基づく指導の改善点に示されている、「評価しながら読む能力」を高めることにつながると考えられる。

本単元は、高等学校学習指導要領「国語総合」「2 内容」の「C 読むこと」の指導事項ウ、エに基づき単元を設定した。和歌からストーリーを予想したり、ストーリーから和歌を作ることによって作品を評価しながら読み味わったり、読みを深めたりする能力の育成を図った。

(4) 単元の目標

ア 登場人物の考え方、感じ方を、身近に理解しようとする。（関心・意欲・態度）

イ ストーリーを基にして和歌を作り、予想したストーリーや作った歌と本文を比較して読みを深める。（読む能力）

ウ 時代背景、歌物語の成り立ち、文法事項、重要単語を理解する。（知識・理解）

(5) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
①和歌の果たした役割を理解しようとしている。 ②登場人物のものの考え方や感じ方を身近に感じようとしている。	③和歌の語句の意味から物語の展開を論理的に想像し、和歌の真意を読み取っている。 ④作品のストーリー展開、登場人物のものの見方、感じ方を踏まえた作歌を行っている。	⑤時代背景、文法的知識、和歌の修辞について理解している。

(6) 指導上の工夫

ア 和歌の解釈に、再度、「なぜ」「どんな」という問いを付し、和歌の表現から男女の背景、間柄について物語を想像できるようにする。

イ 結末のストーリー展開を推測して作歌することにより、登場人物の考え方や感じ方をすすんで読み取る意欲・関心をもたせる。

ウ 自作の和歌と他者の和歌と本文の和歌とを比較することにより、同じような場面で様々な感じ方があることに気付かせる。

エ 全訳を終えた上で、作品全体について疑問点を見付け、時代背景や習慣の違いについて理解できるようにする。

(7) 指導と評価の計画（別紙）

(8) 成果と課題

ア 成果

- (7)生徒一人一人が時代背景や結婚の習慣などに対して関心をもつことができた。
- (4)ストーリーを作ること、和歌の真意を読み取ろうとする意欲を喚起することができた。
- (7)平安時代の和歌の作歌動機・過程を疑似体験させることで、テキストを評価しながら読むことができた。
- (エ)登場人物の心情がどのように和歌に結実したかを理解することにより、平安時代の和歌の役割など、様々なものの見方を深めることができた。

イ 課題

- (7)あらすじとの整合性を保ちつつ、自由な作歌への意欲を喚起するために、結末の方向性を示さないワークシートを工夫する必要がある。
- (4)物語の展開を推測させることが、評価しながら「読むこと」に結び付く可能性は、確かめられたが、推測させる方法には「書くこと」との関連を踏まえた工夫が必要である。

V 研究の成果と課題

1 成果

- (1)「国語力」の充実を目指した教材・指導方法を工夫し、その実践を通して「個に応じた指導」の充実を図ることで「確かな学力」が向上した。それを、各分科会の共通成果とすることができる。
- (2)「国語力」育成のために、毎時間の指導目標と評価規準を明確にした学習指導計画を作成し、検証授業を行った。そして、生徒による授業評価を踏まえて、問題点を明らかにし、指導方法を工夫して、授業改善を繰り返したことが「個に応じた指導」の充実につながった。
- (3)「書くこと」分科会においては、相手の主張を受け止めてそれに反論する意見文を書く活動を通して、自分の考えを論理的に表現する力を伸長させた。「読むこと」分科会は、「現代文」班では統計資料の読み取りや文章の図解を通して、「古文」班ではストーリー予想と作歌を通して、与えられた情報を評価しながら読む力を育成した。
- (4)「生きる力」としての「国語力」の育成は、国語科だけでは担いきれない。委員一人一人が所属校で発信者となって課題を指摘し、国語科の取組について説明し、他教科の協力を求めた。

2 課題

- (1)「国語力」向上に関する社会の要請を意識し、今後も継続的に指導方法の開発に努めていく必要がある。
- (2)「話すこと・聞くこと」の領域においても、「国語力」育成のための目標を明らかにした学習指導計画の作成が必要である。
- (3)「個に応じた指導」の一層の充実を図るためには、生徒による授業評価を有効に活用し、さらに評価規準や評価方法の工夫を重ねる必要がある。
- (4)学習した内容の日常化・一般化を図り、「生きる力」としての「国語力」育成ができるよう、より一層他の教科との連携を深めていく必要がある。

(7) 指導と評価の計画 (4 時間扱い)

国語総合 (第 1 学年)

時間	各時間の目標と評価規準	評価の実際と方法	学習活動	指導上の留意点
1 2	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に関心をもち、すすんで理解しようとする。【関心・意欲・態度】①② ・時代背景を理解している。 ・文学作品を読み味わうために語句を的確に理解している。【知識・理解】⑤ ・和歌の真意を読み取る。【読む能力】③ 	<ol style="list-style-type: none"> 1 関心・意欲をもって取り組んでいる。【行動の観察】 2 語句の用法・表記などを理解して読んでいる。【行動の観察】 3 和歌の語句から展開を想像しようとしている。【行動の観察】 4 ワークシートに記入している。【記述の点検】 <p>◆ ワークシート 1</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「伊勢物語」の時代背景を確認する。 2 「歌物語」の成り立ちと、和歌の役割について理解する。 3 和歌を解釈し語句を根拠にストーリーを想像する。 <hr/> <ol style="list-style-type: none"> 4 作品展開と想像したストーリーを比較する。 5 ワークシート 1 から簡井筒の第一段落全文の読みと現代語訳とを確認する。 6 文法事項を理解する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 副教材の便覧によって、貴族の一生についての予習を行うよう指示をしておく。 2 和歌の現代語訳から、登場人物の行動や考え方、感じ方について、小さな疑問も記すよう指導する。 3 ストーリー展開を推測させる。その際、和歌のどの語をどのように解釈してストーリーを想像したのか根拠を示すよう指導する。 4 初めに個人でストーリーを想像させ、時間を切ってグループを編成し、他者の視点も参考にしながら納得のいくストーリーを作らせる。 <div> <p>評価 C の生徒への指導の手だての例 和歌からストーリーを想像させるためのヒントとなる疑問点を示す。</p> </div>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・作品に関心をもち、すすんで理解しようとする。【関心・意欲・態度】①② ・作品の展開を踏まえた和歌を作る。【読む能力】④ ・語句を文脈の中で理解している。【知識・理解】⑤ 	<ol style="list-style-type: none"> 1 作品の展開を根拠に作歌しようとしている。【行動の観察】 2 ワークシートに記入している。【記述の点検】 <p>◆ ワークシート 2</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 ワークシート 2 に本文と訳を入れさせる。 * 背景説明と、心情説明部分を確認し、登場人物の心情とあらすじを理解する。 2 文脈にあった和歌を作る。 3 ワークシート 2 を提出する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 作品の大まかな流れは示し、結末だけは伏せておく。 2 女性の立場に立って、和歌を作らせる。その際、背景 (季節、時間帯、ムード)、創作意図 (何を訴えたい歌なのか) について解説できるようメモを添えて和歌を作るよう指示する。 <div> <p>評価 C の生徒への指導の手だての例 結末について可能性のある展開を示す。</p> </div>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の特色をとらえる。【知識・理解】⑤ ・作品をすすんで理解しようとする。【関心・意欲・態度】①② 	<ol style="list-style-type: none"> 1 ワークシートに記入している。【記述の点検】 2 自分の考えを深めようという姿勢で取り組んでいる。【行動の観察】 <p>◆ ワークシート 2</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 他の生徒の和歌、本文の和歌と自作の和歌とを比較する。 2 序詞について理解する。 3 ワークシート 2 に本文を書写し、現代語訳する。 4 登場人物の行動、心情、習慣等について疑問点を挙げ、自ら答えを考える。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 自分の和歌と比較することで、同じ背景から様々な読みがあることに気付かせる。 2 作品の和歌に用いられた和歌の修辭に気付かせる。